

「心の障害を越えて」

神奈川県立相模原中等教育学校 一年 中村 優太

なかむら ゆうた

皆さんは、体だけでなく、心にも障害ができるということを知っていますか。

僕には、小学校時代の友達で対人恐怖症という心の障害をもった子がいます。対人恐怖症とは、人と接すること、人前に立つことに恐れを抱く障害です。入学当初、クラスの皆にだんだん友達ができてきたころ、その子だけは休み時間も朝も、一人で絵を描いていました。そんな中、ふと僕の目に写ったのは、その子が「妖怪」と書いてある本を読んでいく光景でした。その頃僕は妖怪に興味があったので、「もしかしたらこの子と気が合うのではないか。」と思いました。次の日から、その子に話しかけたいと思いながら休み時間を過ごしていました。けれど、「挑戦する」ということは、やはり怖くて勇気が出ませんでした。しかしそんなある日、「少し頑張れば友達が増えるかもしれない」と考え、勇気を出して話しかけてみました。すると、やはりその子も妖怪に興味があることが分かり、話はずみしました。それからというもの、毎日のようにその子と話をし、だんだんと妖怪以外のことも話すようになり、とても楽しい日々を送りました。けれど、一つ不思議だったのは、その子はずっと仲の良い数人しか話をしなかったのです。

三年生の頃、その子と数人の友達と休日に遊ぶ約束をしました。小学校で集合し、僕の家まで移動する道中の話で明らかになったのは、その子が「対人恐怖症」という障害をもっていたことです。症状は前述の通り、人と接することに恐れを感じるというものです。その後は皆で普段通りに遊びましたが、僕はどうしても、その対人恐怖症ということが気になりました。しかし、僕が気にしているだけでは、何も変わりはありませんでした。

ある日、僕がいつものように友達と話していると、その子の話になりました。その子が図画工作の授業の一環で、賞状をもらったのです。その子の話題がクラスで飛びかう中で僕は閃きました。「僕が間に入ればいいのではないだろうか。僕の友達とその子の仲を取りもつのはどうだろうか。」と、考えたのです。一年生のときのことを思い出し、勇気を出して行動してみたところ、その二人が「友達」になりました。すると、それからしばらくして僕は思いがけない光景を目にしました。事情を聞いてみると、僕が間に入ってその子の友達になった子がさらに他の子との仲を取りもち、さらにその子が他の子と仲を取りもつという状況で、どんどん友達が増えたとのことでした。

その子とは今でも時々会っていて、皆の中で大切な存在です。その子との経験を通して僕は「心に障害があっても仲良くしたいという気持ちがあれば友達になれる。」という思いを持ちました。小学校の六年間を通して学んだその子との経験を活かし、今後も様々な人と仲良く友達にな

